

●第五表 前年ニ豫防注射ヲ對象兒童ノ四〇%以上ニ普及セシメタル警察管
區ノ昭和九年一月及二月ニ於ケル「チフテリア」患者發生表

警察署別	豫防注射 施行時期	在住兒童數 ニ對スル 一回注射 普及率	患者發生數	
			該當年齡者 計	非該當年齡者 計
丸ノ内	昭和八年 自九月三十日 至十月十四日	九四%	五	八
高輪	自四月六日 至五月十一日	八七%	五	八
六本木	自五月八日 至八月十五日	七七%	二	四
象湯	自十一月二十六日 至十一月十八日	八三%	三	五
日本堤	自九月二十五日 至十一月五日	八二%	一	五
太平	自八月三十日 至八月三十一日	六一%	九	八
厩橋	自八月十四日 至九月十四日	八一%	四	四
大井	自十月二十九日 至十月二十九日	五一%	五	三
合計			三六	五三

警察署別	豫防注射 施行時期	在住兒童數 ニ對スル 一回注射 普及率	患者發生數	
			該當年齡者 計	非該當年齡者 計
大崎	自十一月二十五日 至十一月二十五日	四〇%	二	六
尾久	自十一月二十七日 至十二月二十七日	八八%	八	五
南千住	自九月二十二日 至九月二十二日	七四%	一	二
三河島	自九月二十五日 至十一月八日	九〇%	二	五
日暮里	自十一月二十四日 至十一月二十四日	七一%	九	四
千住	自八月十四日 至八月三十一日	五七%	六	五
寺島	自三月二十日 至八月十八日	八五%	一	三
吾嬭	自七月二十五日 至七月二十五日	六七%	二	二
八王子市	自九月二十二日 至九月二十二日	八〇%	四	五
青梅	自十一月二十四日 至十二月二十四日	六八%	二	八
計			四一	四〇

右ノ内普及率八〇%以上ノモノヲ再掲

計(總注射人員ハ一三四、三三四人ナルモ此内八歳以上ヲ除キ二乃至七歳ノモノハ二二、一〇〇人ナリ)

●第六表 前表患者ノ人口ニ對スル發生割合

區	分	第十警察管區				
		注射施行項目				
		昭和八年中ノ豫防注射施行人員	施行後年末迄ニ轉出其他ニ依ル減員ヲ見積修正ス	施行當時豫診中止或ハ不參集ノ爲注射ヲ受ケザリシ人員	施行當時滿一歳未満ノモノ並人口代謝ニ依ル増加ヲ見積修正ス	計
人口及注射人員(昭和八年末)	昭和九年一月及二月ニ發生シタル患者數	人口一萬對發生率				
一、二二、一〇〇	一九	一・六六	一、〇五一、一〇〇	一、一八八、四〇〇	七四、二〇〇	六二、八〇〇
一、〇五一、一〇〇	一二九	一四・八三	八二	平均	一、〇七	六・八五
六二六、五〇〇	五五九	八・九二	六二六、五〇〇	五五九	三、九九四、三〇〇	四二八
三、九九四、三〇〇	四二八	一・〇七	三、九九四、三〇〇	四二八	三、九九四、三〇〇	一・〇七

4. 總括考察

イ、各統計ヲ綜合考察スルニ昭和八年ニ施行シタル「アナトキシシ」ノ注射ハ之ヲ受ケタルモノ、

中ヨリ若干ノ罹患者ヲ出セルモ、之ヲ行ハザリシモノニ對比スレバ注射後免疫生成前ニ罹患シタルモノヲ加算評價シテ猶概ネ罹患率ヲ六分ノ一乃至九分ノ一程度ニ抑壓セリト推測セラレ、各地ヨリ發表セラレツ、アル「シツクテスト」陽性者ニ對シテ注射ヲ施行シ「リテスト」ヲ行ヒタル場合ノ陰性轉向成績ニ大體接近セルコトヲ思ハシムルモノアリ。

ロ、本調査ニ於ケル豫防注射施行後ノ罹患者ハ未ダ實數少ク之ヲ統計的ニ推斷シ得ザルモ

(一) 平素罹患率ノ高キ年齢程注射ノ效果劣ルカノ感アルコトハ「シツクテスト」ノ年齢別成績ト符合セル如ク思ハシム。

(二) 夏季ニ注射セルモノハ冬春季ニ施行シタルモノニ比シ成績稍劣ルニアラザルカヲ思ハシムル點アリ、季節ニ依リテ抗體ノ產生ニ多少ノ差違ヲ生ズルヤ否ヤハ興味アル點ニシテ今後「アナトキシシ」注射或ハ「シツクテスト」ニ依リテ諸家ノ研究ヲ望ム次第ナリ。

ハ、「アナトキシシ」注射ハ幼弱者ニ行フモ嫌忌スベキ特異反應殆ド無シト雖モ注射器具或ハ空中飛塵等ヲ介シテ化膿菌ノ如キ微菌ノ微量ガ萬一注射液中ニ混入シタル場合ニ暫時生存スルモノ、如ク、一面本液ハ人體ニ吸收緩慢ニシテ之ニ混入シタル微菌ハ増殖シテ一週間前後頃ニ至リ深部ニ化膿點ヲ作ル事例時ニアリ、爲ニ多數人ヲ集合シテ混雜裡ニ注射ヲ施行スル場合ノ如キ器具類及皮膚等ノ消毒ニ特段ノ注意ヲ拂フ必要アルコトハ本豫防方法普及上ニ於ケル一ツノ

缺點トスル處ナリ。

ニ、以上ハ傳研並北研製「アナトキシン」ノ三回、二c.c.位ノ注射ニ依ル成績ノ極メテ短期間ニ於ケルモノナルガ、防疫行政ニ携ハル者トシテハ「アナトキシン」ハ更ニ一層強力單位ノモノヲ作リテ注射回数ヲ減ジ而モ反應其ノ他ノ事故ノ憂ナキモノニ改良セラレンコトヲ切ニ翹望スルモノナリ。

第九節 其ノ他ノ傳染病豫防

一、痘瘡 豫防

痘瘡ノ豫防ハ畢竟種痘ノ勵行ニ盡キルベシト雖、其ノ實施ニ當リテハ、緩急汎狹ヲ案ジ病毒所在ノ實情ニ適スル手段ヲ採ルニアラザレバ徒勞ニ失シテ實效ヲ收メ難シ、當廳ニ於テハ爰ニ留意シ先ヅ、(1)患者ノ早期發見及診斷ノ確正 (2)患者ノ系統並病毒汚染者ノ精査 (3)患者ノ隔離及病毒汚染場所ノ消毒 (4)患家消毒ノ際及患者移送ノ際ニ於ケル病毒散蔓防止等ノ措置、ヲ敏活嚴重ニ處理シ(5)種痘ノ施行ニハ患家ノ家人其ノ他病毒汚染者ニハ即日主義ヲ採リ深夜ト雖之ヲ遷延スルコトナカラシメ、患家ヲ中心トスル周圍二百米狀況ニ應ジテハ三百米ノ圈内並患者收容病院内ノ爾他ノ入院患者職員及病院附近居住者ニ對シテハ即日若ハ翌日ノ間ニ而モ初生兒病弱者ト雖洩レ無ク種痘ヲ受ケシムルコトヲ通則トシ、其ノ他ノモノニ對シテハ狀勢ニ應ジテ各種團體毎ニ種痘所ヲ開設スルヤウ勸奨セル處ナルガ、本年ノ痘瘡發生ニ際シテモ終始此方法ノ徹底ヲ期シタルニ過ギズ、今年ノ豫防區處ニ關スル要旨ヲ羅列セバ左ノ如シ。

尙常時施設トシテ屑物營業取締ノ爲ニ現場取締係五名ヲ專任シ、之ヲ絶ヘズ巡回セシメテ消毒ノ徹底、違反行爲ノ監視ニ充テ以テ痘瘡ヲ始メ各種傳染病ノ豫防ニ資セシメツ、アリ。

- (1) 二月十六日玉川野毛町ニ患者ノ發生ヲ見ルヤ直ニ發衛防第五五號ヲ以テ『病毒ハ朝鮮ヨリ移入シタルモノナリ尙目今鹿兒島縣下ニ蔓延シツ、アル初發患者モ亦朝鮮ヨリ移入シタルモノナリ、時恰モ本病流行ノ好適季節ニ際會セルヲ以テ朝鮮方面トノ來往者ニ最モ注意警戒ヲ要スルニ付此際鮮人ノ居住スル地域ニ對シ機宜ノ檢病的調査ヲ勵行シ、未種痘者ニ對シテハ迅ニ種痘ヲ行ハシメ且新ニ朝鮮ヨリ渡來シタル者ニ對シテハ當分ノ内健康視察ヲ行フベキ旨』警察署ニ指示セリ。
- (2) 前項ノ指示ニ依リ管下ニ在住スル鮮人ニ對シテ警戒ヲ加へ、就中多摩川沿岸ニ砂利採取ヲ業ト爲セル者ニ對シテハ特ニ種痘ノ徹底、檢病調査ノ勵行ヲ期シ幸ニ病毒ノ擴大ヲ防止シ得タルヤウ信ジ居タルニ突如、日本橋區濱町ニ別系統ヲ以テ滿洲ヨリ病毒ヲ移入シタリ時恰モ他ノ諸府縣ニモ同様事例頻出シ、滿鮮ノ流行狀態ニ稽ミ晏如タルヲ得ズ又主務省ヨリモ定期種痘ノ施行ニ關シ指示アリタルニ依リ三月九日發衛防第八七號ヲ以テ『定期種痘ヲ早期ニ行ヒ其ノ施行ニ際シテハ種痘洩レ無キヤウ念慮シ、豫防ノ完璧ヲ期スベキ旨』市區町村及警察署ニ指示セリ。

- (3) 第十一號患者ノ發生ニ稽ミ三月二十日發衛防第一一三號ヲ以テ『初發以來患者既ニ十一名ニ及ビタル處十八日決定ノ第十一號患者ハ發病後十四日ヲ經過シ其ノ間全然醫療ヲ受ケタルコトナク而モ病症極メテ重ク何人ト雖痘瘡タルコトヲ認メ得ラル、程度ナリシニ拘ラズ、同居人ハ何等申告ノ手續ヲ爲サズ死亡後屍體ノ處置ニ窮シテ始メテ所轄警察署ニ届出タル狀況ニシテ、幸ヒ現狀

地ハ陸軍射的場内ノ廣袤地ナリシヲ以テ恐ラク病毒ノ蔓延甚シカラザルベシト思料セララル、モ、萬一他ニ斯ノ如キ事例アリトセンカ實ニ戰慄スベキ事態ニ至ルヤ必セリ、依テ此際鮮人ニ對シテハ洩レ無ク檢病的調査ヲ勵行シテ隠レタル患者ノ絶無ヲ期スルト共ニ種痘ヲ勵行シ以テ本病豫防上遺漏ナキヤウ』管下ニ指示セリ。

- (4) 第十八號患者ハ生後二ヶ月、第二十號患者ハ生後六ヶ月ノ乳兒ナリ(註 本年患者七十二名中ニ生後二ヶ月以内一名、六ヶ月以内二名、一年以内ノモノ六名アリタリ)大正十三年ノ流行時ニモ生後一ヶ月以内四名、三ヶ月以内ノモノ六名アリタリ、世ニハ種痘施術心得ヲ誤認シテ三ヶ月以内ノ初生兒ニハ種痘ガ禁忌ナルカノ如ク思惟セル者尠ラズ、種痘ハ出産後直ニ行フモ何等障害ナクスル未種痘ノ乳兒コソ最モ感染シ易ク危険ニ曝露セルモノナルニ依リ、該當乳幼兒ニ對シテハ速ニ種痘ヲ受クルヤウ五月二日「ラヂオ」ヲ通ジテ家庭ノ注意ヲ喚起セリ。

- (5) 下谷區ノ爆發的流行ニ鑑ミ六月二十九日發衛防第二八號ヲ以テ重ネテ『六月二十八日下谷區、淺草區其ノ他數ヶ所ニ多數ノ痘瘡患者發生セルガ之ガ系統詳ナラズシテ病毒蔓延ノ度測リ知レズ且罹患者中ニハ定期種痘期ヲ經過シテ猶之ヲ受ケザルモノ多キ實情アルヲ以テ、患者ノ早期發見ト種痘ノ勵行ニハ特段ノ配慮ヲ爲スベキコト』ヲ警察署ニ指示シタルガ前章ニ述ベシ如ク七月八日發病ノモノヲ最後トシテ漸ク終熄ヲ告ゲタリ。

(6) 本年施行シタル臨時種痘人員左ノ如シ。

患者、患者立廻先及患者收容病院ヲ中心トスル有毒地帯居住者
其ノ他

六三六、九二一人
一、六二六、七七一
二、二六三、六九二人

右臨時種痘施行人員中ニハ定期種痘ニ該當スル者八六、九四二人アリ

二、流行性腦脊髄膜炎ノ豫防

本年發生シタル流行性腦脊髄膜炎患者ノ家族同居人ニ對シテ、保菌者檢索ヲ施行シタル人員七百三十人ヲ算シ、健康保菌者二名ヲ發見シ居レリ。

●流行性腦脊髄膜炎保菌者檢索表

	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	合計
檢索數	三七二	三三四	三五二	六九三	八九七	一、三二四	六七〇	七三〇	五、三六二
保菌者發見數	一八	一八	三	一七	二四	一九	九	二	一一〇
發見千分率	四八・四	五三・九	八・五	二四・五	二六・八	一四・五	一三・四	二・七	二〇・五
病後繼續排菌者	—	—	—	一	—	—	—	—	二

三、「ペスト」豫防

東京市保健局ニ常置スル除鼠班ニ、當部ヨリ監督員八名ヲ配置シテ市内要地ノ捕鼠勵行ニ努メ、細菌檢査所三河島出張所ニ於テ鼠體ノ細菌檢査ヲ施行シ、以テ鼠族間ニ於ケル「ペスト」流行ノ有無ヲ絶ヘズ注視シツ、アリ、本年ノ鼠體檢査施行數左ノ如シ。

一九〇、九七二匹

第三章 宮内關係防疫事務

天皇陛下 ニハ五月四日府下淺川町並立川町ニ行幸アラセラレ、皇太后陛下 ニハ六月十六日淺川町ニ行啓アラセラレタリ、行幸啓地ニ對シテハ事前ニ各種防疫施設ヲ勵行シテ傳染病等ヲ流行セシムルコトナク地方靜謐上遺憾ナキヲ期シタリ。

本年中皇族邸内ニ傳染病ヲ發生シタルコト七件、學習院及新宿御苑構内ニ發生シタルモノ七件アリ、又宮内省侍從職式部職ヲ始メ各部局職員並宮城出入商工業者ニシテ傳染病ニ由リ參入停止ヲ命ゼラレタルモノ一四件アリ是等ニ對シテハ夫々機宜ノ措置ヲ講ジ遺憾ナキヲ期シタリ。

禁闕ニ傳染病發生シタル場合ノ外部ニ於ケル取扱並常時ニ於ケル其ノ防疫事務ニ關シテハ、曩ニ昭和二年二月制定シタル『宮内關係防疫事務取扱順序』ヲ指針トシテ夫々警察署ニ取扱ハシムルノ他、防疫課ニ巡廻視察員トシテ防疫醫一名防疫監吏三名ヲ置キテ、毎年左記ノ如キ計畫ノ下ニ宮内省各部局ニ食料品ヲ納入スル業者ノ、店舗及製造所ノ衛生状態ヲ視察シ從業員及家族ノ健康診斷檢便等ヲ行ハシメツ、アリ、又本年痘瘡流行ノ際ニハ從業員一齊ニ種痘ヲ受ケシメタリ、此等業者ハ本年末現在ニ於テ大膳課用達商九十七名、皇后宮職ニ六名、皇太后宮職ニ十九名、其ノ他ノ部局ニ九十二名、合計二百十四名ニシテ、其ノ從業員及家族數三千五百九十四人ニ及ベリ。

●第一表 宮内省食料品納入者及之ニ準ズル者ノ視察及病原體保有者檢案施行標準

(昭和八年)

種別	戸數	從業員及家族ノ現在數		巡廻視察	檢行		標準
		御用達係及炊事係	其他		御用達係及炊事係	其他	
甲種	九九	二一三	一、五四一	每月一回以上	每月一回	年四回	八、七二〇
乙種	四九	一〇二	五五八	每月一回以上	每月一回	年三回	二、八九八
丙種	六六	一五三	一、〇二七	月三回以上	每月一回	年二回	三、八九〇
計	二一四	四六八	三、一二六		延 五、六一六	延 九、八九二	延 一五、五〇八
合							一六、七〇八
四大節及觀櫻觀菊御會御催ノ爲大膳課ニ臨時雇入ラルル者ニ對スル健康診斷及保菌者檢案							一、二〇〇

備考 甲・乙・丙ノ三種ハ左記ニ依リ區別セリ
 甲種 直ニ飲食スベキ食品ノ納入者
 乙種 加熱其ノ他加工後飲食スベキ食品ノ納入者及之ニ準ズベキモノ
 丙種 其ノ他ノ食品及之ニ準ズベキモノ

右ニ依ル本年ノ實施成績ハ左表ノ如クニシテ、多數ノ傳染性疾患及保菌者ヲ發見シ居レリ、蓋シ是等保菌者等ノ中ニハ時ニ禁苑ヲ汚スコトノアルベキヲ想定セラレ實ニ恐懼ニ堪ヘザル處ニシテ、此ノ施設ノ重要性ト當事者トシテノ責務ノ重大ヲ痛感スルコト切ナリ。

●第二表 宮内省食料品納入業者ニ對スル健康診断施行成績

年次別	健康診断(健康視察ヲ含ム)施行延人員		發見シタル異常者	
	令規定ノ疾病豫防	普通病患者	計	計
昭和四年	八三、六四九	三九	五〇九	五四八
同五年	七五、〇二〇	五七	四二六	四八三
同六年	八七、六一一	二七	二九八	三二五
同七年	八五、一〇二	三八	三三〇	三六八
同八年	七七、六五六	二八	二五六	二八四

●第三表 病原體保有者檢索成績

年次別	檢索延人員	發見シタル病原體保有者		
		腸「チフス」	「パラチフス」	赤痢
昭和四年	一二、二六一	六	一	六
同五年	一三、六五九	三	二	二
同六年	一四、七七五	二	一	一
同七年	一四、九三六	一	二	一
同八年	一五、六四七	一	二	二

備考 本表ニハ四大節及觀櫻、觀菊御會ノ際臨時宮中ニ備入ラルル料理人、配膳人ニ對スル施行人員ヲ含ム

2A-A-31

終